

見ないふり、ありがとう

大阪教育大学 神村 香織

今日のコラムの表題は、カナダのオンタリオ州が2015年に製作した「セクハラ防止啓発動画」のタイトルである。これは、性暴力の加害者が傍観者に対して「ありがとう、見ないふりしてくれて」と言っているセリフなのである。日本のセクハラやチカン防止の啓発ポスターや動画は、「チカンに気をつけて」「夜道に注意」など被害者に自衛を求めるものが多い。しかし、この動画のターゲットは傍観者となるかもしれない私たちに対して「行動する」ことを呼びかけるものである。

この動画で、まず最初に登場するのは、パーティの最中に、泥酔させた女性を友人に撮影させている男性である。その男性がこちらに向かって「声を出さないでくれてありがとう」と言い、ニヤリと笑って撮影を続ける。また、学校の場面もある。男子生徒がスマホで撮影した女の子の写真を友人に見せている。友人たちは「もっといいやつ見せろよ」といって、スマホの中の写真をのぞきみる。男子生徒もまたこちらを向いて、「黙っててくれてありがとう」と笑いながら、「もっといい写真」を見ている友人たちの輪の中に入って行く。最後に登場するのは、バーで女性と飲んでいる男性だ。女性は、友人と挨拶をするために少しの間席を離れる。その隙について男性は飲み物に睡眠薬を入れる。そして、またこちらに向かって言うのだ。「誰にも言わないでくれてありがとう」と。

さてここで、州政府のメッセージが流れる。「何もしないということはこのような男性を助けることになります」「しかし、あなたが何か行動を起こせば女性を助けることができます」見ないふりをして黙っていることは、性暴力加害者を助けることになる。何か行動を起こすことで、私たちは性暴力被害者を助けることができる。この動画では、最後に、被害者たちが、行動を起こしてくれた人に対して感謝のメッセージを伝える映像が流れる。ボーイフレンドに写真を暴露されていた女子生徒は、「彼を止めてくれてありがとう」と友だちに伝える。飲み物に睡眠薬を入れられた女性は「バーテンダーに伝えてくれてありがとう」という。誰かが、バーテンダーにそっと伝えたことで、バーテンダーが新しい飲み物に取りかえてくれたのだ。

この秋、日本においても、「行動する傍観者」という動画が製作され YouTube で公開されている。エスカレーターでの盗撮、すれ違いざまに胸を触るボディタッチ、しつこく付きまとうナンパ、社内の飲み会での接待強要など、私たちの日常生活の中にある性暴力が描かれている。動画の中盤では「その逸らした視線が性暴力をしやすい社会を作っています」というメッセージが流れる。そして、その後、最初の場面「エスカレーターでの盗撮」を見ないふりをしてしまった男性が、それぞれの場面で、もう一度「行動する傍観者」となるためにやり直しをしていく。加害者に直接抗議をしなくても、できることは幾つもある。例えば、エスカレーターの盗撮では、少し近づくだけでその動きを察知して盗撮者はスマホを引っ込める。

「行動する傍観者」で検索してぜひこの動画を見てもらいたい。あなたが視線を逸らさずに、「加害者を助ける傍観者」から「行動する傍観者」になるために。